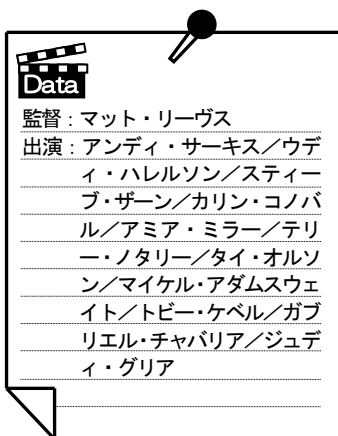




👁️👁️ みどころ

『猿の惑星』シリーズも既に9作目。近時の主役はもっぱらシーザーだ。この名前とキャラクターはまさに当たり役となり、以降の人類と猿との抗争ストーリーを形成してきたが、シーザーが真に願うのは平和。そして、人間との共存だ。しかるに、なぜ猿と人間は戦いを続けてきたの・・・？

21世紀の今も同じような現実があるが、それを猿と人間の世界でいろいろとシミュレーションできる本シリーズは貴重。新シリーズ3部作の最終章となる本作のクライマックスでの戦いとその結末をしっかりと検証したい。

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— *

■シリーズも9作目！そのテーマは？主役は？■

大ヒットした「猿の惑星」シリーズの最新作たる『猿の惑星：聖戦記（グレート・ウォー）』が公開！第1作『猿の惑星』（68年）から約半世紀を経ているが、本作はそのシリーズ第9作にあたるもの。そしてまた、『猿の惑星：創世記（ジェネシス）』（11年）（『シネマールーム27』95頁参照）、『猿の惑星 新世紀（ライジング）』（14年）（『シネマールーム33』246頁参照）に続く、新シリーズの第3作にあたるものだ。

1976年に始まった「ロッキー」シリーズは残念ながら『ロッキー・ザ・ファイナル』（06年）（『シネマールーム14』36頁）で終了したが、『猿の惑星』シリーズは今なお健在。ちなみに、1977年に始まった『スター・ウォーズ』シリーズも、去る8月に『スター・ウォーズ エピソード3 シスの復讐』（05年）（『シネマールーム8』121頁）、『STAR WARS エピソード1／ファントムメナス 3D』（12年）（『シネマールーム28』未掲載分）、『スター・ウォーズ／フォースの覚醒』（15年）（『シネマールーム37』未

掲載) が公開されたが、来たる12月15日には最新作『スター・ウォーズ／最後のジェダイ』が公開予定だから、それにも注目！

初期の「猿の惑星」シリーズでは、何と言っても主演を演じたチャールトン・ヘストンの存在感が目立っていたが、シリーズが版を重ねるにつれて、そのテーマもストーリーも大きく変化し、近時は猿のリーダーであるシーザー（アンディ・サーキス）が主演となっている。しかして、シリーズ最新作では、ついに地球の歴史が塗り替えられ、新たな支配者が決する激動のドラマになるそうだが、さて、そのテーマは？主演は・・・？

■□■本作の見どころは？ストーリーは？■□■

チラシによれば、本作の見どころは、次のとおりだ。

壮大なスケールのディザスター・アクションと心揺さぶるドラマで全世界を震撼させた『猿の惑星』。最終章となる『聖戦記(グレート・ウォー)』は、高度な知性と人間的な心を併せ持ち、人類との共存を望み続けていた主人公シーザーが、最愛の家族を失う衝撃的なシーンで幕を開ける。復讐の旅に出たシーザーと、彼の宿敵で軍隊を率いる大佐との種の存亡をかけた壮絶にしてエモーショナルな物語が展開。さらに口のきけない謎めいた少女ノバの出現、そして予期せぬ人類の退化により、この惑星の運命が大きく変わろうとしていく…。猿にとっても人類にとっても負けることのできない〈聖なる戦い〉、その歴史的瞬間が遂に明かされる！

また、チラシによれば、本作ストーリーは、次のとおりだ。

人類に家族を殺され、復讐に燃えるシーザーが、 愛する仲間のために下した最後の決断とは？そして少女ノバがもたらすものとは？

猿と人類が全面戦争になだれ込んでから2年後の世界。森の奥深くに秘密の砦を築いたシーザー(アンディ・サーキス)は、冷酷非情な大佐(ウディ・ハレルソン)の奇襲によって妻子を殺され、悲しみのどん底に突き落とされる。大勢の仲間を新天地へ向かわせ、復讐の旅に出たシーザーは、その道中に口のきけない謎めいた人間の少女ノバと出会う。やがて大佐のアジトである巨大要塞にたどり着くシーザーだったが、復讐の念に囚われて我を見失った彼は絶体絶命の危機を招いてしまう。一方で、人類には予期せぬ退化の兆候が現れる…。

■□■新たな2人のキャラをどう評価？■□■

チラシに書かれているとおり、本作では「猿と人間との究極の対決」がテーマだが、ストーリーはいつの間にか、シーザーと大佐(ウディ・ハレルソン)との個人的対決の様相を呈してくる。それは大佐のキャラの濃さが大きく影響しているためだから、『地獄の黙示録』(79年)におけるカーツ大佐によく似た(?)、この大佐のキャラに注目！他方、少女ノバ(アミア・ミラー)の突然の登場は少し違和感があるが、その病氣(の原因)は本作のストーリーを牽引する糸口になるので、それに注目！

また、本作後半ではシーザーの盟友としていつも彼の側にいたオラウータンのロケット(テリー・ノタリー)のほか、新たにチンパンジーのパッド・エイプ(スティーブ・ザーン)が登場し、ちょっと間の抜けたキャラとして存在感を発揮するので、それにも注目！

この新たな少女ノバとバット・エイブの登場には賛否両論があるだろうが、良くも悪くもそれが本作後半のストーリーになっていく。さて、それに対するあなたの評価は？

■□クライマックスの攻防は迫力いっぱい！■□

近時のハリウッド映画はストーリー構成に感心させられることは少ないが、アクションのド派手さについては感心させられることが多い。それは、本作でも同じだ。大佐が根拠地としている基地では今、捕虜となっている大量の猿を使って広大な「壁」を建設しようとしていたが、これは一体なぜ？壁の建設については、昨年12月のトランプ大統領の当選後、アメリカとメキシコの国境に巨大な壁が建設されるのではないかと心配されたが、今のところは、国民の反発と北朝鮮情勢の緊迫化もあってその政策は進んでいない。しかし、大佐は北朝鮮の金正恩と同じ「独裁者」だから、すべての決定は彼の一存で進んでいるらしい。

その大佐からの「急襲」によって、本作前半に妻と子供を殺されてしまったシーザーは今「大佐憎し！」の感情も露わに、大佐の基地に乗り込んでいたが、そこでどうやって大佐に対決し、大佐への復讐を遂げるの・・・？誰がどう考えてもそれは困難もしくは不可能に思えたが、本作のクライマックスにおいては捕虜とされていた猿たちの集団脱走と火薬庫の大爆破シーンの中でそれが実現していくので、そのド派手な演出に注目！

さあ、これによって究極の猿と人類との対決の結末は・・・？そして今、あの最終的な攻防戦の中で生き残ったシーザーたちを含む猿たちは安住の地にたどりつけたのだろうか・・・？それは、あなた自身の目でしっかりと。

2017（平成29）年10月20日記